

い の ち

太田 藤 一 郎

谿の細徑

秋は熟れつくしている

深い冷たい蒼空

あかるい雑木林をぬけて

しずかな杉のこだちにはいる

ゆったり あゆみをたのしみ

あすはいくさに征く

この人は ときどき

かすれ声で

ああ 秋は美しい という

胸いっぱいすすいこむ

秋の空気のせつなさ

この人は 一呼吸一呼吸

いとおしくかみしめ

かみしめ 味っている

わたしはなにも言えない

幼ないときに

なくなった母のことが

ふと 思われて

涙がこぼれそうになった

いのち
草の実のこぼれる
今日かぎりの
秋